SINAPIS

社会活動センター・シナピスは平和を実現する使命に向けて生きる人びとを応援します

月刊シナピスニュースレター

Vol. 96

2024. 5

年間テーマ　～あきらめない　平和への道を　ともに～

３月に開催した「ウエルカム・シナピスデイ」の風景

右：教区事務所前の看板（強風に飛ばされずに耐えました）

左：参加者の有田利二さん（浜寺教会）が描かれたシナピスへのメッセージカード

地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス(からし種)です。
イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、
愛し合うように願って平和の種をまき、
やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

カトリック大阪高松大司教区
社会活動センター・シナピス

TEL/06-6942-1784　FAX/06-6920-2203
Email/sinapis@osaka.catholic.jp
ホームページ/https://sinapis.osaka.catholic.jp/

巻頭言

クラレチアン宣教会司祭　長崎 壮

主体的なキリスト者

神学生の修練期間、修練長のスペイン人神父から祈りの指導を受けましたが、その中で日本の精神文化の特性は、ことばや音を注意深く聞き、それを意識の領域に落とし込む意識の文化であり、西洋は聞くことよりも自分の考えを外界に伝えるレトリック（修辞）の文化と教えられました。

そう言われてみると、私の時代の学校では自分の考えを表現することよりも、先生の話をよく聞き、理解することを重視した教育を受けました。

「口は禍（わざわい）のもと」、「出る杭（くい）は打たれる」という諺（ことわざ）も、権威者や目上の言うことをよく聞き、それに従順に従うという長い歴史の中で培（つちか）われた精神文化の中で生まれたのでしょう。

私の修練長だった神父さんは、瞑想（めいそう）においては聞くことを重視する日本の意識の文化を高く評価していましたが、私は現代の日本の教会は西洋のレトリックの文化から学ぶところも多いように思います。

教会は社会福音化のために宣教し活動しますが、社会や文化を福音化していくためにはカリスマ的な指導者が出てきて、信者皆がそれに適切な判断もせずに従うということではなしえないような気がします。

それよりも、自分自身の目でよく見て、考え、祈り、批判や孤立を恐れることなく意見を言い、主体的な行動ができるキリスト者がひとりでも多くなることです。

そして、主体的に考えるときの物差しとなるものこそ主イエス・キリストが宣（の）べ伝えた福音です。近年は学校教育の場では、アクティブラーニングを積極的に取り入れていますから、主体的に考え、行動できる若い世代の人が社会にも教会にも少しずつ増えてくるかもしれません。

復活節の今、週日のミサでは使徒たちの宣教が継続的に読まれています。復活のイエスに出会ったペトロは、迫害を受けたとき「人間に従うよりも神に従わなくてはなりません」（使徒 5:29）と勇気をもって宣言します。

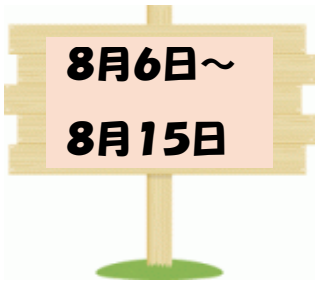
使徒たちの勇敢さは、宣教の歩みが進めば進むほど拍車がかかっていくようですが、それはペトロをはじめとする使徒たちが復活の主と出会い、イエスの語られたみことばに確信を持ち、主体的に生きることを選び取った結果です。

年間テーマ

～ あきらめない！　平和への道を ともに～

身近なことから世界に至るまで、互いを思いやれないことで生じる衝突が後を絶ちません。剣を取る者は皆、剣で滅びる」（マタイ 26:52）と言われたイエスの生き方に倣い、暴力に打ち勝つ強い信念をもち、**交わりを通して互いを理解し尊重しあえる平和の実現を目指します。**このニュースが皆さまといっしょに考え、わかちあいの場となることを願っています。

『日本カトリック平和旬間』って



聖ヨハネ・パウロ二世教皇

於：広島（カトリック新聞社提供）

教皇ヨハネ・パウロ二世の　広島『平和アピール』と『平和旬間』

1981 年２月２５日、「平和の巡礼者」として来日されたヨハネ・パウロ二世教皇は、『戦争は人間のしわざです。戦争は人間の生命の破壊です。戦争は死です。･･･日本の２つの町、広島と長崎は「人間は信じられないほどの破壊ができる」ということの証として、存在する悲運を担った、世界に類のない町です。･･･過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことです。暴力と憎しみにかえて、信頼と思いやりを持ちましょう。再び戦争のないように力を尽くしましょう』と広島『平和アピール』を遺されました。

全世界の若者たちに対して「ともに手をとり合って、友情と団結ある未来をつくろうではありませんか。窮乏の中にある兄弟姉妹に手を差し伸べ、空腹に苦しむ者に食物をあたえ、家のない者に宿を与え、踏みにじられたものを自由にし、不正の支配するところに正義をもたらし、武器の支配するところには平和をもたらそうではありませんか。あなた方の若い精神は、善と愛を行なう大きな力を持っています。人類同法のために、その精神をつかいなさい」と。

また、神を信じる人々へは「神が我々の一致を望まれていることを知って、団結しようではありませんか。愛を持ち自己を与えることは、かなたの理想ではなく、永遠の平和、神の平和への道だということに目覚めようではありませんか」と。

戦争を振り返り、平和を思うとき、平和は単なる願望ではなく、具体的な行動でなければなりません。そこで、日本のカトリック教会は、教皇の広島での平和メッセージの翌年、もっとも身近で忘れることのできない、**広島や長崎の事実を**思い起こすのに適した**８月６日から１５日までの１０日間を「日本カトリック平和旬間」と定めました。**

「平和旬間」に、広島教区と長崎教区では、全国から司教をはじめとして多くの信者が集まり、「平和祈願ミサ」がささげられます。各教区でも、平和祈願ミサや平和行進、平和を主題とした映画会、講演会、研修会、平和を求める署名などが行われます。

カトリック大阪高松大司教区の今年の平和旬間のテーマは

「いまこそ平和を－苦しむ人びとの声に耳を傾け応えていこう－」です。

「平和旬間」の意義を理解し、互いを大切にし合う関係を実現し、平和をつなぐために「わたし」「わたしたち」にできることをご家庭、小教区、地区などで一緒に探し、行動に移す決意の平和旬間にできたらいいですね。

日本カトリック正義と平和協議会　全国会議報告

2024 年テーマ「大軍拡に反対する」

日本カトリック正義と平和協議会　教区担当司祭
松浦　謙

正平協の全国担当者会議が、「大軍拡に反対する」というテーマのもとに日本カトリック会館で３月 22 日より 2 日間にわたって開催された。

初日は長年基地反対運動に尽力してきた「ピース・デポ」理事の木元茂夫氏が基調講演を行い、南西諸島のミサイル部隊配備、1 月 9 日の陸上自衛隊員による靖国神社集団参拝、防衛予算の増額などを例にあげ現在の政府の軍拡路線に強い危機感を表した。

２日目はグループ討議に移った。

「自衛のための軍事力は必要だ。攻められても反撃できない国は、結局大国の言いなりになり、その支配下に置かれてしまう」という意見と、それに対する護憲の立場からの反論があった。それは「ひとたび武力を用いれば、報復の連鎖が起こり、歯止めのきかぬ破壊戦争にまで突き進んでしまう。軍事力をもって国際間の紛争を解決しないことを誓い、徹底して非暴力と対話による解決をめざす日本国憲法は、実は戦争を回避する知恵の道ではないか」というものであった。

まとめとして「わたしたちは平和のために何ができるか」について出された意見の中から３つほど紹介しておく。

・国家の安全保障については、政治に携わる人々が判断決定する。しかしわたしたちは何も出来ないわけではない。投票に行き、署名や、集会などでアピールすることができる。
・わたしたちは事実・真実を正しく知る必要がある。誤った情報やプロパガンダによって無意識のうちに偏見や誤解が生まれてくるからだ。
・自分が得た正しい知識を互いに共有し、学ぶ場を作ることが大切だ。

教皇ヨハネ 23 世は回勅『地上の平和』で、**「真の平和は相互の信頼の上にしか構築できない」**と述べられた。これはわたしたちの日常的な人間関係の中で体験することである。相手を尊重し、理解しようと努めること。誠実な対話をすること。互いの信頼関係を築くことが平和の土台である。

「神よ、平和のために、今わたしに何ができるか教えてください。それを実現させる知恵と勇気を与えてください」。そう祈りながら歩み続けたい。

障がい者委員会より

国連障害者権利委員会から
日本政府へ勧告 90 項目以上改善勧告

大阪高松大司教区障がい者委員会　　吉川（よしかわ） 康夫（やすお）

2022年８月にスイスのジュネーブで、障害者権利条約の日本の建設的対話が開かれ、9月9日に権利委員会から日本政府へ勧告（総括所見）が出されました。分離教育の中止、精神科への強制入院・長期入院の廃止を求めるなど、日本に多くの課題を指摘しました。

私なりに、気になったところを一緒に考えてみたいと思います。

① 代替的な意思決定体制の廃止を視野に入れ、すべての差別的な法規定と政策を廃止、支援付き意思決定メカニズムを確立すること。

私自身、高齢者が詐欺に遭わない、財産を守るための“成年後見人制度”を良い制度と思っていました。指摘され、頭をハンマーで殴られたような気持ちになりました。

実際に後見人になった友人から話を聞くと、良い後見人に当たれば良いのですが、そうでないケースもあるようです。自分の財産であるにもかかわらず自由に使えない。一度契約すると変更できないなどです。

② ユニバーサルデザイン

（※１）基準を定着させ、建物、交通、情報通信、その他のサービスが市民に開放または提供されるように行動計画およびアクセシビリティ

（※２）戦略を実施すること。全小教区がバリヤフリーと磁気ループや文字通訳などの充実を期待します。

③ 精神科病院に入院している障害者のすべてのケースを見直し、無期限の入院をやめ、地域社会で必要な精神保健支援と自立した生活を育むこと。

先進諸国の中で、日本だけが入院期間が異常に長い。

④ すべての障害児の普通学校への通学を保障し、普通学校が障害児の普通学校を拒否することを許さない。

子どもの人権にかかわっている弁護士さんから教わりました。「“義務教育”とは、子どもが学校に行く義務ではない。子どもが学校で学べるように環境などを整える学校側の義務である。」と。

⑤ 日本手話を国レベルの公用語として法律で認めること。

話しことばの日本語に対応した日本語手話ではなく、“日本手話”を公用語とする。

⑥ 過剰な“温情主義”はなくす。余計なお世話はしない。

Nothing about us ,without us.（私たち抜きに私たちのことを決めないで）の原則です。

自立支援とは、本人が望む生活の実現です。

※１：年齢、性別、文化、身体の状況に違いに関係なく誰もが使いやすい仕組みやサービスを提供するという考え。

※２：英語では、「近づきやすさ」、「利用のしやすさ」、「便利であること」など。

大阪南地区「社会活動委員会」の最近の取り組みについて

事務局・堺ブロック　金剛教会　　石橋省吾

大阪南地区は 15 教会で組織され、その中の社会活動委員会（以降「社活」）は、教区の「社会福音化部門」のもとに位置づけされています。

なにがしかの社会活動を通して、キリスト者としての証を立てつつ福音宣教することが期待されている委員会であると理解しています。

現在、第 16 回シノドス会議が進行中です。南地区社活は『カトリック時報』などをテキストに学びの時を持つなどして、その動きを注視しています。
「あらゆる人びとが共に歩む」とは何かについて考える絶好の機会となっています。

南地区エリアには「釜ヶ崎」があります。昔から日本社会を底辺で支えて来た日雇い労働者の街です。生活保護制度が行き渡り、行政サービスの進展もあって、ずいぶん様変わりして来てはいますが、今でも「炊き出し」を必要としている街です。
2005 年から南地区社活は、三角公園の炊き出しグループ『勝ちとる会』を金銭的にも人的にも支援することで「釜ヶ崎」と関わり続けて来ました。
15 教会を 5 ブロックに分け、毎月輪番で盛り付け、配膳や食器洗い等の手伝いをしています。もう 19 年目になります。現在、三角公園での炊き出しは、毎週土曜日と第 2・第 4 火曜日で 80 回を年ペースで実施。
2005 年当時は、一回につき 1000 食ほど提供していたようです。2023 年は、一回につき平均 300 食でした。

炊き出しの現場では、いろいろな女子修道会のシスターたちが奉仕されています。
“炊き出しなんか必要ない” 健全な社会になることを夢見つつ、今後も微力ながら「小さくされた人たち」に寄り添っていければと念じています。

Ｍさん、Ｓさんに、在留特別許可が出ました！

在留特別許可を求める子どもと歩む会「ぬくもり」
代表　西口信幸

２月１６日、Ｍ さんと Ｓ さんに、待ちに待った「在留特別許可」が出ました。

Ｎさん家族を応援して来た多くの人たちにとっても、嬉しい、嬉しい知らせでした。

「二人の学資を支援しながら在留特別許可を取得する」という「ぬくもり」設立時の目標を果たすことができました。これまでの署名活動や、奨学金への支援など、多くの方々の協力に心から感謝申し上げます。

最初の署名活動から始まり、「改定入管法」が国会で強行採決される６月までの半年間の活動について、最初の「ニュースレター」を発行しました。

今回は、二人に在留特別許可も与えられ、一区切りが付きましたので、「ニュースレター」第２号として、今後の活動も含めて、この半年間の活動を報告します。

今月号のシナピスニュースに同封していますので、ぜひお読みください。

卒業証書を手にする
Ｍさん

「ぬくもり」活動の第一ステップの終了

８月４日に、「日本生まれの未成年に在留特別許可」という法務大臣の方針が出されましたが、支援の二人はすでに成人して対象外であるため、改めて嘆願署名をおこない、嘆願書を９月に提出しました。

その他、多くの支援者による請願活動の結果、Ｍ さんの大学卒業直前の今年の２月 16 日、二人に留学ビザが下りました。

Ｍ さんは「就労ビザ」申請し、４ 月１日から就労も可能になりました。

「ぬくもり」活動の次の展開

・母Ｎさんの在留許可への引き続きの支援、Ｓさん（大学３回生）の就職までの様々な支援など引き続き活動は行います。今後ともご支援をお願いします。

・「ぬくもり」の枠組みを広げる**「ぬくもり奨学金」**として基金を開始しました。
まだ全国には２００人を越える、同じような境遇の子どもたちが残っています。
２人の「在特」は貴重な成功事例として、大学に進学する青年や支援者グループにも大きな希望を与えています。

・多文化共生社会に向けての活動
在留者への排他的な入管法は、「技能実習」制度の破綻、「育成就労」制度の制定の中で永住権の剥奪という新たな矛盾と問題を拡大させています。
入管法の適正化に向けた活動中で、倍増する若い外国人が安心して日本で暮らせるよう、カトリック教会の中で受け入れの活動に向けて新たな活動を模索して参ります。

戦争をしない　軍隊を持たない　憲法９条を世界の宝に

大阪の集い in 2024　報告

４月 20 日（土）13:00～15:30　サクラファミリア（大阪梅田教会）３階聖堂において、ピース９の会 大阪の集い実行委員会主催で「平和学習講演会」を実施しました。参加者は６０余名。

講師は、昨年２月に引き続き松浦悟郎名古屋司教（ピース９の呼びかけ人）で、テーマは**「今　平和が危ない！日本はまた戦争する国になるの？　～今、わたしにできること～」**。

新年早々に「カトリック名古屋教区内」で「能登半島地震」が起こり、松浦司教の健康状態も含め、講演会を実施できるのか心配しました。

しかし、日本に住む私たちも、世界中の紛争や戦争が対岸の火事では済まない危険をひしひしと感じている今、何としてもこの学習会を実施したいという思いが日ごとに強くなりました。

沖縄や南西諸島では「戦前」というよりむしろ「戦中」と同じ状況になっていますが、全く報道されていません。和平交渉の仲介どころか、禁止されていた武器輸出を可能にし、どこまでもアメリカに追従しようとする日本の姿勢に“危険”を感じ、「武器に頼らない平和つくりを本気で考えたい。平和憲法を守る国でありたい」という強い気持ちでこの日を迎えました。

講師の話の中で最も驚いたことは、「ウクライナ・ロシア戦争」で、「軍事侵攻４日後にウクライナとロシアは停戦交渉を行っている。以後、バチカンやトルコを含めいろいろな国が和平調停のために動いた。しかし（トルコの仲介後）、2022 年４月９日、イギリスのジョンソン首相（当時）がゼレンスキー大統領を電撃訪問し、ウクライナへの財政的・軍事的援助をアピールし、ロシア打倒の必要性について説き、トルコでの協議の中止を呼びかけた。アメリカの国防長官も、ロシアを弱体化させることがアメリカの目的であることを表明した」（Global News View　2023 年６月８日）ということでした。

「戦争報道」で、 紛争の平和的な動きや可能性の報道ではなく、対露姿勢や戦争継続を依然として望んでいるともいえる報道が大きく上回るのは、武器メーカーの影響や、廃墟となった町のインフラ整備など戦後復興への目論見の可能性も高いとさえ感じ、エゴのために行う戦争のむごたらしさを改めて悲しく思いました。また、9.11 に象徴されるように、人々がショックと恐怖で思考停止になった状況（ショック・ドクトリン）で、「テロとの戦い」という名目の「対テロ予算」は無制限となり、バクダットの街には米国商品が溢れたとのこと。また、「大量破壊兵器を持っている」と報道したマスコミの８割が、ブッシュの熱烈な支持者メディア王 R・M の所有であったということも、マスコミを鵜呑みにしない賢さが国民に求められていると思いました。

『知ってはいけない　隠された日本支配の構造』（矢部宏治・講談社現代新書）によると、

＊アメリカは日本国内のどんな場所でも基地にしたいと要求できる。日本は合理的理由なしにその要求は拒否することはできない。

＊北方領土の交渉時にも、返還された島に米軍基地を置かないというような約束をしてはならない・・・こういう掟のほとんどは、「日米両政府の間ではなく、米軍とエリート官僚の間で直接結ばれた」とされ、外部に公表する義務もなく、秘密会議は日本の国会よりも上位の存在だということに驚き、日本は事実上、国土全体が米軍に対して治外法権下にあるということを思い知らされました。

最後に、「日本がどのような国を目指しているのか」を改めて知るために、日本国憲法の前文と９条（井上ひさし訳）の朗読を聴き、「平和憲法改悪」の国民投票時には「NO！を」と確認しました。

閉会後、４階の教室での「分かち合い」には２０名が参加され、午後５時まで充実した和やかな交流が続きました。また、「能登半島地震」への募金は、松浦司教にお預けしました。参加してくださったすべての方に感謝いたします。

（ピース９　大阪の集い実行委員会世話人）

投稿欄　ガリラヤの風

「調和」について考える

ニックネーム　　またやん

動物園でホッキョクグマの親子を見てきました。

子グマは母グマと思われるクマの足の間でずっと寝ているだけで、鑑賞する私たち来園者も、それほど長く観ることはできませんでした。

子グマにとって来園者たちは、ある意味で”ストレス“なので、寝ていてくれる方が良いのかもしれません。

動物園はきっと、最も調和の効いた楽園に違いありません。

必要と思われる数だけで飼育して、数が急増しないように管理する…

動物と動物の間を壁で隔てて、強いモノが弱いモノを食べないように見張る。

広いサバンナを疾走する自由はないが、エサを探して何百キロも旅をする必要はなくなった…。

しかし”調和”と呼ばれるものは、最も耳障りの良い、やんわりとした”支配“のことを言うと思います。

調和の取れた社会とは、本来は不自然なもので、良かれと思って人為的に手を加えて造られた「楽園」はいつしか不自由となり、「楽園」で暮らすための条件のゆえに”人間らしさ“を捨ててゆかなくてはならない。

動物も人間も全く同じことで、私たちの暮らしを安全に、なおかつ便利にするために考案された多くのテクノロジーは、進化だけが独り歩きしてしまい、人間は、自分が作り出した文明に振り回されてしまっている。

私たちは生き物としての特質を制約されるようになり、我慢を強いられながら、「楽園」での暮らしを続けてゆく。

調和という言葉。私としてはあまり好きな言葉ではありません。

シナピス社会活動センターこぼれ話

シナピス事務局　ビスカルド篤子

社会活動センターは人が交わる場所です。毎日ここで誰かが笑い、悲しみ、時には泣いたり怒ったりしています。そんなシナピスの日常風景を綴ってみることにしました。

３月〇日　　政治家の裏金問題に怒りの涙

フィリピンにいる妻を呼び寄せる書類準備のため、N さんが事務局に来ました。コロナ禍もあってＮさんは何年も妻に会えず、またその間に大病を患ってしまったため生活状況が一変し、彼は生活保護を受ける身となりました。N さんは何度も妻を呼び寄せようとしましたが「生活保護受給者」であることが理由で、妻のビザ認定許可が下りないのです。

「貧乏人は妻と住んだらあかんのんか。妻が日本で働いてくれたら生活保護も受けんですむがな」と N さん。色々話すうち、話は国会議員の裏金問題に及びました。「あの裏金てなんでっしゃ？わしら信じて投票してきたのに、裏金て。ほんで貧乏人は家族とも住めへんのんか。わし悔して」とＮさんは泣き出しました。政治は私たちの生活に直結している。Ｎさんの涙に、私は政治家の裏金問題に冷めた目で心も動かさなかった自分を恥じました。

３月 22 日　　六甲学院の生徒たち、難民に出会う

春休みを利用して六甲学院のカトリック研究会の中高生たちがシナピスを訪れました。余談ですが、カトリックを研究する人のうちカトリック信者はいないそうです。

この日、私は難民申請者のルイスさん（仮名）を紹介しました。生徒たちは食い入るようにルイスさんの証言に耳を傾け、次々に質問を浴びせました。生徒たちの真剣な目と直球の質問や意見にルイスさんも熱が入りました。こどもたちの柔軟な頭と元気な声に、私もルイスさんも活力をもらいました。若者に出会うたび日本の将来は明るいと確信します。

３月△日　　ミスター泥棒来たる

泥棒が白昼堂々と正面から入ってきました。

シナピスの入り口カウンターの棚には米や乾麺、レトルト食品などの救援物資が置いてあり、いつでも誰でも気軽に持っていけるようにしています。彼はそれを知っていました。

その日、彼は抜き足でしゃがみつつシナピスに入ると、黙ってカウンター下の救援物資を袋に詰め込み始めました。

私はカウンター越しに彼を覗き込み「ちょと！挨拶もなしに入ってきて黙って取ったら、そりゃ泥棒でしょうが」と声をかけました。

ミスター泥棒は顔をあげて「あ、私、泥棒ですか」、「はい、泥棒です」

ミスター泥棒は盗む行為をやめて、私の同意のもと、私の目の前で米一袋、乾麺一袋とマスク一箱を持って去っていきました。

地元警察署のお巡りさんからひとこと。「事務所に杈（さすまた）一本置いておくことをお勧めします。何なら杈（さすまた）の使い方講習会、やりますよ」

シナピスホーム便り

山田　直保子

読者のみなさま、お久しぶりです。
ホームは毎週土曜日にカフェ、月一回ランチを提供しています。
先日のカフェの時に、関西合唱団の方が 11 名で来られました。
生きづらさを抱えている人たちの楽曲を作りたいとのお話を受け、去年の夏に、篤子さんの仕事や、一人の難民移住者に取材をしてイメージをつかみ、作詞作曲をしていただきました。
その曲がついに出来上がったとのことで！わざわざ来訪し、披露してくださりました。
カフェのお客さま、難民移住者で、初めて合唱をお聞きしました。
「心が震える」とはこういうことですね。まだ練習中ですので…と謙遜されていましたが
高音低音が混ざって心地よく響き、実際に取材に立ち会った私は、歌詞もうまく作っていただいて心に刺さり涙が出てきました。
難民移住者たちも言葉はよくわからないものの、合唱に深く感動していました。
歌は万国共通で誰でも口ずさみ、心に刻むことができますね。
この曲は、一番が難民移住者、二番が難民支援している篤子さんについての歌詞になっています。
10 月の 5 、 6 日に住友生命いずみホールで披露されます。
ほかには「トランスジェンダーの方のお話」「障がいのあるこどもたちのお母さんたちのお話とこどもの人たちのお話」などなど、次のような 5 つのお話を合唱されるそうです。

５つのお話をあなたに知ってほしいのです

・・・多様性、生きづらさ、自分を表現、人のきずな、笑い合うこと・・・
子どもも大人も自分で考えるアトリエのお話　　虹色トランスジェンダーのお話
難民生活を 18 年つづける女性のお話と難民支援する女性のお話
障害のある子どものお母さんたちのお話とこどもの人たちのお話
保健所で働く保健師のお話　　（チラシより抜粋）

シナピスにいる難民移住者は仮放免許可で入管から出て、住民登録もできず、健康保険も加入できず、就労も禁止されていますが、そういう話を知らない人はたくさんいます。
そのような難民だけではなく、色いろな状況の生きづらさをかかえている方々のお話が、5 つの楽曲となり、「知ってほしい」という思いが取っ掛かりとして歌になって皆さんの心に入っていくはずです。
前回来られた時には、ホームにあるオルガンを使って、お客さまたちとともに日本の童謡を歌って大盛り上がりになりました。
難民移住者たちが置き去りにならないよう、それぞれの国の童謡を紹介してもらったりできたらいいねと具体的な提案もでてきて、また実現しそうです。その時はぜひ皆さまお越しくださいね。

カトリック大阪高松大司教区　社会活動センター

シナピス

Social Action Center of Catholic Archdiocese of Osaka-Takamatsu

地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス（からし種）です。
イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

シナピス年間テーマ～「あきらめない 平和への道を ともに」～

シナピスの風

＊掲載行事はコロナ感染症の影響で延期または中止になることがあります。ご参加の際は連絡先にお問い合わせください。

第１６７号　2024年5月1日発行

５月の祈り

みことばに導かれて平和を祈る

「主は国々の争いを裁き、
多くの民を戒められる。
彼らは剣を打ち直して鋤とし、
槍を打ち直して鎌とする。
国は国に向かって剣を上げず、
もはや戦うことを学ばない」
（イザヤ 2･4）
「どこかの家に入ったら、まず、
『この家に平和』と言いなさい」
（ルカ 10･5）
「わたしたちは、神の約束によって、義の宿る新しい天と新しい地を待ち望んでいます」
（ペトロⅡ3･13）

慈しみ深い天の父よ
平和を保つための法的な枠組みを
みことばに導かれて
守りたいのです
わたしたちの努力を
祝福してください
主キリストによって
アーメン

社会の福音化をめざす キリスト者の集い ２０２４

開催日：2024 年 5 月 25 日（土）
13 時～16 時半
＊対面とオンラインと両方の参加可
場　所：大阪高松教区本部事務局
1 階ホール

テーマ：「苦しむ人びとの声に
耳を傾け応えていこう」
講　話：本田哲郎さん
（フランシスコ会）
＊どなたでもご参加できます。
申込み締切日： 5 月 13 日（月）

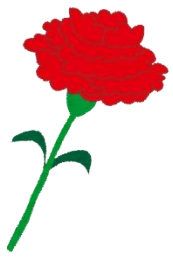
＊出席申込フォームの QR コード

＊講演会のご紹介

若者のための「性」と「いのち」の話

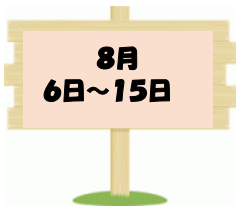
お腹の中からいのちが尊重される
世界を願って

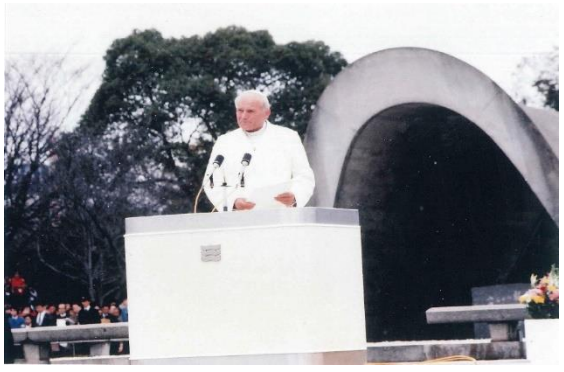
日　時：6 月 9 日（日）13 時半～15 時
会　場：大阪明星学園 マリアンホール
（講堂）（大阪市天王寺区餌差町 5 番 44）
講　師：松本信愛さん
（ガラシア病院 常任理事・チャプレン）
参加費 ：1,000 円（学生無料）
（当日会場にてお支払い）
申　込：不要、どなたでもご参加ください
主　催：認定 NPO 法人
こうのとりのゆりかご in 関西主催



「日本カトリック平和旬間」って

聖ヨハネ・
パウロ二世教皇
於：広島
（カトリック新聞社提供）





戦争を振り返り、平和を思うとき、平和は単なる願望ではなく、具体的な行動でなければなりません。そこで、日本のカトリック教会は、教皇の広島での平和メッセージの翌年、もっとも身近で忘れることのできない、**広島や長崎の事実を**思い起こすのに適した**８月６日から１５日までの１０日間を「日本カトリック平和旬間」と定めました。**

「平和旬間」に、広島教区と長崎教区では、全国から司教をはじめとして多くの信者が集まり、「平和祈願ミサ」がささげられます。各教区でも、平和祈願ミサや平和行進、平和を主題とした映画会、講演会、研修会、平和を求める署名などが行われます。

カトリック大阪高松大司教区今年の平和旬間のテーマ
「今こそ平和を－苦しむ人々の声に耳を傾け応えていこう」

「平和旬間」の意義を理解し、互いを大切にし合う関係を実現し、平和をつなぐために、「わたし」「わたしたち」にできることをご家庭、小教区、地区などで一緒に探し、行動に移す決意の平和旬間にできたらいいですね。

シナピスホーム

★毎週土曜日　13 時ごろ～16 時ごろ
５月の開催：１１、１８日
★月１回ランチ(要予約)
５月はお休みです！

支援のお願い

日持ちのする食品、ハラル食品、食用油、米、カップ麺、など、また、石けん、シャンプー、タオル
テレホンカード、などの
ご支援をお願いいたします。

カトリック大阪高松大司教区 社会活動センター シナピス
Tel 06-6942-1784　Fax 06-6920-2203
URL: https://sinapis.osaka.catholic.jp/

「点訳版」「音訳」
ご希望の方はシナピスまで
お申込み下さい。

活動へのご支援ご協力を
よろしくお願いいたします。

郵便振替　00960-7-61419
加入者名　カトリック大阪大司教区シナピス

難民移住者への支援物資提供も
よろしくお願いします。

米、ハラール食品、レトルト食品、油、
テレフォンカード、レトルトご飯、缶詰

お電話をお待ちしています！！
☎06-6942-1784

シナピス公式
さまざまなお知らせや情報を発信！
友達追加は 👇 QR コードから 👇

CATHOLIC_OSAKA_SINAPIS_

◀◀◀　HP はこちらから
https://sinapis.osaka.catholic.jp/

ニュースレター配布停止ご希望の方は
シナピスまでお知らせください。

あとがき

シナピスのスタッフが先日、京都のノートルダム女学院高校の黙想会に同席しました。若者たちとともに、とても良い時間を過ごせたそうです。同校のミッションは、「尊ぶ」「対話する」「共感する」「行動する」の４つです。黙想会でも、これらのキーワードが大切にされていたのではないでしょうか。

今、社会のさまざまな問題は複雑さを増すばかりです。目の前の問題解決に夢中になる過程で、仲間と対立が生じることもありがちです。「自分は間違ったことをしていないのに、どうして？」と、落ち込むこともあるのではないでしょうか。

私たちはふだん、仲間とどれだけ対話をしているでしょう。対話は議論のように、相手を説得したり問い詰めたりはしません。どんなことを思い、どんな違和感を持っているのか、耳を傾けて共感的に理解を深めあっていくことです。対話や共感が欠けたところには、不信や分断が生じがちだと思います。

社会の問題に関わる際には、ともに働く仲間たちを尊び、対話と共感をもって信頼を深めあうことが大切だなと思います。それが、より良い判断や行動を促していくことでしょう。（Ｉ）

▽▲▽　シナピスの主な活動　▽▲▽

◆広報活動
・教皇メッセージ、司教団メッセージ等
　社会活動の指針の伝達
・読者と教会内外の社会活動をつなぐ
　機関誌としてシナピスニュースを発行

◆大阪高松教区・社会活動委員会との連携
◆学習会研修会の企画
◆こども基金
　世界・日本のこどもたちへの援助
◆日本カトリック司教協議会との連携
　正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、カリタス、部落差別人権委員会に委員を派遣
◆人権教育の講師を務めるなど教育機関への働きかけ
◆難民移住移動者支援
　難民移住移動者の暮らしやすい社会を目指して

難民移住移動者　相談ダイヤル
☎ 06-6941-4999

アクセス
〒540-0004 大阪市中央区玉造 2-24-22
カトリック大阪高松大司教区事務局内

●公共交通機関ご利用の場合
JR 森ノ宮駅より　約 1000m
地下鉄中央線森ノ宮 2 番出口より　約 800m
JR 玉造駅より　約 1000m
地下鉄長堀鶴見緑地線玉造 1 番出口より約 800m
●車でお越しの場合
阪神高速１３号東大阪線法円坂出口
法円坂交差点南へ上町を東へ

活動へのご支援ご協力をおねがいします
□郵便振替　00960-7-61419
　加入者名　カトリック大阪大司教区シナピス
□三井住友銀行　玉造支店　普通　9401958
　カトリック大阪大司教区　シナピス
　代表役員　前田万葉
□オンラインはこちら　➡➡➡